## インドネシアを枯らさない。 現地デビュー40年目の決意!!!

世界で3番目に大きな島であるインドネシア・カリ マンタン島(英語名ボルネオ島)、東部の沖合60キロ に位置する〈サウスマハカム鉱区〉。天然ガス生産 用プラットフォーム3基の新規建設に加え、陸上ま で全長約80キロのパイプラインを敷設するという のが、プロジェクトの全容である。他の化石燃料 に比べて、環境性に優れる天然ガス。採掘後は湾 岸の〈ボンタンLNG基地〉で液化され、日本・台湾・ 韓国などに輸出される。周辺域ガス田の枯渇とと もに、年々減少する傾向にあった同基地の生産量 を増やすことにつながるプロジェクトは、輸出先の エネルギーセキュリティを支えることにもなる。



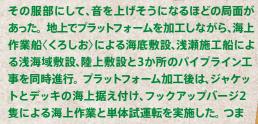
鉱区の権益を持つTOTALインドネシア社にとっては リーマンショック後の初の大型開発であり、このプロ ジェクトに寄せる期待も大きかった。一方、新日鉄 住金エンジニアリングにとっても、大きな意味を

持っていた。全工程 における業務の連 携をより高めるため、 設立40年目となるイ ンドネシア・ジャカ ルタの現地子会社 NISCONI社に、自前 のエンジニアリング

部門を設置。外部のエンジニア リング会社を使わずに、どこま でできるのか。その成果が問 われる、初のプロジェクトにな ったのである。NISCONI社 がEngineering (設計) と Procurement (調達)、インド

ネシア・バタム島の現地法人NS-BATAM 社がConstruction (加工)、新日鉄住金エンジニア リングのシンガポールオフィスがInstallation (施工) を担当するという〈EPCI〉の布陣で臨んだ。

こうして、2010年8月にプロジェ クトの幕は上がった。プロジェ クトマネージャーの服部は、サハ リンやタイなどのタフな現場を経 験してきたベテランで、インドネ シアでの工事も初めてではない。



り、ピーク時には5か所の 施工が同時並行して動 いたのである。

加工を担ったNS-BATAM社では、プラッ トフォームを3基同時に 手がけることになった。 海の真ん中に誕生した天然ガス掘削 プラットフォーム。工期22か月、1000人 以上のチームワークの結晶である。



1つの大きさは脚部 にあたるジャケット だけで約65メートル、 3基の総重量は約 9000トンにおよぶ。 同時加工が可能 だったのは、大きな 受注が重なってもい

いようにと、戦略的に加工ヤードを拡張しておいたか らである。このプロジェクトでもピーク時には約

1000人の現地ワーカー が作業にあたったが、イ ンドネシアに雇用を創出 している企業として、競争 が厳しい中でも事業縮小 はできるだけ避けたい。 〈インドネシアで培ってき た技術や人的な資源は枯 らさない〉との強い思いが あるのだ。



バタムのローカルスタッフたちと

入社15年目の山田は、プロジェ クトの序盤からNS-BATAM 社に乗り込んだ。プロジェクト マネージャーの服部がもっと も大切だと考える、加工・ 調達・設計のあいだでこぼ れ落ちるものがないよう

な綿密なインターフェイス。そこを担うプロジェ クトエンジニアを任されたのだ。山田はその役 割を果たせたのか。そして、〈EPCI〉の布陣は機 能したのか。その答えは、次の3つの事実が物 語っている。

1つは、22か月という短納 期にも関わらず、契約の期 日に竣工・引き渡しを果た したこと。2つめは、加工・ 施工を合わせて約2350 人が携わった工事を430 万時間無災害で、重大な 事故もなく安全に完遂で きたこと。そして、3つめ は、山田の誇りでもある、



海上へと運ぶ前段階での客先による検査結果だ。こ の規模の加工の場合、検査項目は数万にものぼり、 「問題あり」との指摘が入る箇所は「1000」を超え ることもめずらしくない。ところが、TOTAL社の担 当者が満足げな表情で告げた数字は「8」。山田と共 に品質向上を目指してきた多国籍の現地ワーカーた ちにも、大きな自信をつけさせるものになった。

## NS-BATAM社による、 現地の次世代育成

当社のエンジニアを専門学校に講師として派遣すると



NS-BATAM社 志賀社長



